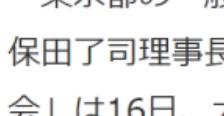


## 「気仙の映像」発信を デジタル公民館けせん 地域間連絡会で初公開 大船渡で (別写真あり)



▲ 気仙の魅力を紹介する映像を見ながら意見交換を展開



東京都の一般財団法人・高度映像情報センター（AVCC、久保田了司理事長）による「『デジタル公民館けせん』地域間連絡会」は16日、大船渡市末崎町の多世代交流館・居場所ハウスで開かれた。この日は、同センターがデジタル公民館活動を通じて制作した映像ソフト「美しい国『けせん』～気仙の自然・文化・暮らし～」が初公開され、参加者らは気仙の魅力に改めて理解を深めながら、地域活動に関する意見交換を行った。

AVCCは通信ネットワークやコンピューターといった高度映像情報メディアの利用と提供に関するコンサルティング、民設民営のデジタル公民館「霞が関ナレッジスクエア」事業などを展開。本年度は県による「被災者の参画による心の復興事業」の採択を受け、地域コミュニティーの形成や地域振興に気仙全域で取り組む「デジタル公民館けせん」事業に取り組んでいる。

地域間連絡会は、気仙両市の関係団体が活動状況と課題を発表し合い、情報交換を通して地域振興活動に理解を深めようと開催。3回目のこの日は、大船渡市から末崎地区公民館、PC・スマート教室、居場所ハウス、どこ竹三鷹inまっさき、碁石地区復興まちづくり協議会・浜の停車場碁石、田ノ頭オレンジカフェ、蛸ノ浦地区公民館、陸前高田市からは気仙大工左官伝承館と一般社団法人・長洞元氣村が参加。AVCCのスタッフらも含め、30人余りが集まった。

冒頭、居場所ハウスのプロモーションビデオを上映。続いて、同ハウスを運営するNPO法人・居場所創造プロジェクトの鈴木軍平理事長と久保田理事長があいさつ。久保田理事長は「かねてから気仙の魅力を感じており、半年をかけて発信用の映像を作った。ドローンによる鳥の目線も交えた映像になっているので、皆さんで観賞してほしい」と述べた。

このあと「美しい国『けせん』」が上映され、参加者らは碁石海岸や矢作川、各地の祭り、気仙大工の技、子どもたちの姿などを5分46秒にまとめた映像をじっくり観賞。郷土の魅力、豊かな資源を改めて見つめ直した。

意見交換では、末崎地区公民館の話題提供に続き、各団体が現在の取り組みや感想などを発表。地域づくりや課題解決に向けたヒントを出し合った。

「美しい国『けせん』」は、インターネットのYouTubeチャンネル (<http://youtu.be/rZsmjsThmdE>) から視聴可能。スマートフォンやパソコンで「けせんの魅力」を検索しても見ることができる。